

阿波國 すきま漫遊記

— 関東からの転入者による徳島再発見 —
VOL.14 田んぼの中の墓



■上板町

「これがお墓？ お地藏さんじゃないの？」と思うなかれ。江戸時代以前の墓はこのような光背を負った仏像型が多かった。このような墓石を「舟型」という。近代では子供の墓に用いられる形式なので、形だけで即年代判定はできないが、このような石造物は、仏像ではなく墓石だということは覚えておこう。

田んぼの中の墓

「きょうは天気もいいし、国府あたり田んぼウォッチングでも行くか!!」というので4月下旬ごろの私の休日の過ごし方だ。4月下旬には県北地方で水田に水を張り田植えの準備が始まる。このころから田植え直後までは、水田が一番美しく映える季節で、田んぼ觀賞には最適だ。さて、徳島の田んぼを見て不思議に思うのは、田んぼの中にお墓が多いことである。お寺や霊園以外の場所、つまり家の裏や田畑に墓地をに作られた墓は「屋敷墓」と呼んで全国的にあり、珍しくはない風習だ。だが水田のと真ん中に墓石があるというのは、他県ではあまり見かけないように思う。



▲阿波市阿波町

このような頭頂部が平たいピラミッド状になった墓石を「山角型」という。この形式は明治時代以降の墓だ。なお、墓地にある墓で頭頂部が鋭利な四角錐になっているのは、軍人の墓である。



▲徳島市国府町

このような頭頂部がかまぼこ型になった墓石を「櫛型」という。江戸時代中期に出現した形式で、江戸時代の墓の主流の形式だ。稲刈り時にコンバインが衝突しないよう目印が立ててある。



▲上板町

このような五角形の墓石を「駒型」という。板碑が変化したと考えられていて、江戸時代の前半に流行した形だ。風もなく鏡のように静かな水面に映る姿が清々しい。

誰の墓なのか？

田んぼの中の墓にまつられているのは誰なのだろう。いろいろ聞いてみてもはっきりとはわからない場合が多い。書物によればこれらは「地主さん」「忌申さん」などと呼ばれる。墓が田畑の中にある理由としては一般に次のように説明される。①元は屋敷だった場所が、家が絶えたりして耕地に変わった。②他人がその田畑を欲しがらないようにわざと墓を建てる。子孫が田畑を手放さないようにするためである。③その土地を開墾した人を功勞して畑の中に埋葬する。④長男が家を相続する前に死んだとき、親がその子に田畑を継がせるという気持ちから田畑の中央に墓を作る、というケースがあるらしい。現代人にとっては①は理解しやすいし、実際にそう思える墓所もある。しかし先に入らう。屋敷墓であれば歴代の墓石が並んでいるケースが多いからだ。



▲石井町

田んぼを見ているというより、何か別のファンタジックな光景を見ているようだ。墓石はかさ上げされた墓壇の上に建っている。これは、元屋敷だった場所が耕地に変わった例ではないだろうか。



▲徳島市矢三

矢三は田んぼの中の墓が多い土地だが、この物件には墓石がない。崖布垣らしい大ききしかなく、藪のひと振りであけてしまっそうだ。代々これを遊けて耕作してきたというのすこいことだと思ふ。



▲上板町

シルエットがまるで南方仏教の寺院のようだ。五輪塔は鎌倉から室町時代の主要な墓石の形式だが、これは古いものではない。徳島では五輪塔は武士の墓だとされている。



▲徳島市入田

五輪塔や宝篋印塔がある島状の墓所。このように田んぼの中にある島を「タンマ」と呼ぶそうだ。この島には秋には彼岸花が咲き乱れる。県内で最も美しいタンマだ。



▲北島町

田んぼの中にあるのは古い墓ばかりではない。比較的新しい墓石が並んでいる墓所もある。これでは田んぼから水が引くまでは、墓参りもままならない。



▲徳島市国府町

石塔の自重で地中にめり込んでしまっているのだろうか。耕作していったん畑になった土地にあとから墓が作られた例ではないかと思う。



▲石井町

田んぼの中にあるのは墓だけではない。数は多くないが、お宮もいくつか見られる。元々は屋敷神だったものなのだろうか。田んぼの中のお宮は県西の方面に多いような気がする。



▲石井町

これはもやタシマではなく「軍艦島」と呼ぶたい。宝篋印塔が艦橋のように見え、シルエットがまるで戦艦だ。軍艦のように見えるタシマは他にも数ヶ所あるが、この物件が最高にカッコよい。



▲阿波市阿波町

県西では田んぼの中の墓の密度は小さくなるが、この物件は撫養街道から南側に見えるので見つけやすい。堂々たる有像船型石塔だ。石塔を遊けて苦勞して稲が植えてある。

田んぼの中の墓は、北島、藍住、上板、石井、徳島市矢三、国府あたりに特に目立つ。なぜなのかはわからない。耕作をするには邪魔になるが、かといって他に押し悪いこともあるとイヤだという信心深さが理由のひとつとしてあるようだ。現代は人の良心よりも効率が優先される時代であり、食品の偽装事件などは当然起るべくして起こったといえるだろう。ここで紹介した田んぼでは、効率が悪くても神さまや先祖を大切にしている気持ちで耕作が続けられている。日本人全体がそのくらい余裕を持って生きられればよいのにと思わずにはいられない。